

子ども一人一人が輝く授業づくりを目指して ～「伝え合い」を通して、学びを深める子どもの育成～

加茂市立加茂西小学校

1 学習指導上の課題

今年度、当校の児童数は、全校で79名である。学級の人数は、8～22名である。学校規模や地域性などから、例年、物事に受け身であることや、仲は良いのだが児童同士の人間関係づくりに広がりがなくコミュニケーション能力がなかなか育たないという課題がある。学習にもそれが反映され、授業では指示されたことは一生懸命行うが、主体的に学ぶ姿勢に欠ける面がある。また、自分の思いや考えを伝えようとする気持ちが弱く、思いがあっても伝え方がわからない、といった実態も見られる。

そこで、はっきりとしたねらいをもった「伝え合い」活動を意図的・効果的に組み込み、双方向のコミュニケーションを反復、深化・発展させる授業づくりを行い、学習意欲を高め、確かな学力を身につけていく児童の姿を目指し、「子ども一人一人が輝いている授業」の実現に取り組むこととした。

また、今年度の学習指導改善調査の結果、下記のような各学年の課題が明らかになった。

学年	国 語	算 数
4年	<ul style="list-style-type: none">・長い文章が書けない。・原稿用紙の使い方が身につけていない。	<ul style="list-style-type: none">・問題の読み取りが不十分である。・記号を使った表し方が身につけていない。
5年	<ul style="list-style-type: none">・問題の読み取りが不十分である。・自分の考えや体験を理由の中に組み込んで書けない。	<ul style="list-style-type: none">・説明が不十分である。・問題の読み間違いや理由が曖昧である。
6年	<ul style="list-style-type: none">・体験・見学場所の特徴や良さを書く際「知識・体験」を書き加えることがほとんどできない。	<ul style="list-style-type: none">・算数用語をうまく使えない。・考え違いや計算間違いが多い。

上記の結果を見ると、相手の意図を読み取ることと自分の考えを伝えることが不十分なために出てきている課題が多い。ここからも、双方向のコミュニケーション活動を充実させ、伝え合う力を身につけることの重要性が見えてくる。

以上の課題解決のため、別紙のとおり研究テーマを設定し取り組んだ。以下は、その取組の実際について述べることとする。

研究テーマ 子ども一人一人が輝く授業づくりを目指して

～「伝え合い」を通して、学びを深める子どもの育成～

学びを深める

★ 意欲をもって取り組む ★ 自分の学びに気付く ★ 自信をもつ ★ 学び方が分かる

各学年の目指す子ども像



自分

相手

伝え合い

(「伝え合う力」＝「分かり合う力」)

- | | | |
|-----------------|------------------|--------------------|
| ① 互いに言葉で分かり合える力 | ② 分かり合おうとする姿勢や態度 | ③ 人やものとの新たな関係をつくる力 |
|-----------------|------------------|--------------------|

- ・ 自分の思いや考えを確かにする、整理する
- ・ 振り返る
- ・ 自信をもつ

自分の思い

学習、経験、体験を通して生じた考えや感じたこと・気付き、発見

- ・ 自分の思いを表したい
- ・ 相手に伝えたい
- ・ 思いを深めたい

受け手の思い

- ・ 相手の思いを知りたい
- ・ 自分と比べたい
- ・ 思いを受け止めたい

《目的》(*2)

- ・ 自分の伝えたいことを表現する、理解してもらうこと
- ・ 相手の伝えたいことを理解すること
- ・ 意見や考えの交流を行い、自分の考えが深まったり、変わったりすること
- ・ 結果として、人と人とのよりよい人間関係づくりができること

《方法》(*2)

- ・ 子ども同士の説明活動や教え合い活動を入れる
- ・ 問題解決部分のある課題を用意し、小グループによってコミュニケーションを促す
- ・ 子どもに授業の感想を記述させる等して、教師の授業の展開に生かす

2 取組の実際

(1) 児童の考えを引き出し生かす授業の実践

～第6学年「国語科」の実践から～

① 単元名 学級討論会をしよう（話すこと・聞くこと）

② ねらい

- ・ 自分の主張が聞き手に伝わりやすいように、具体例、資料を示しながら、適切な声量、速さで話すことができる。
- ・ 話し手の考えと自分の考えを比べながら聞くことができる。
- ・ 自分の立場をはっきりさせて話し合うことができる。

③ 構想

本単元では、児童の発言意欲を高めることに重点を置いて指導する。発言意欲を高めることは、学習で身につけた言語能力をあらゆる教育活動の中に、積極的に活用しようとする意欲にもつながる。また、それが生きて働く言語能力の育成にもつながると考えたからである。

そのため、以下のような手立てを講じ取り組んだ。

ア 活動を支援するための少人数からの話し合い(単元を通しての構想)

普段の授業の中で、あまり積極的に発言できない児童にも、話し合いの要領やコツをつかみやすく、気構えをせずに話せる、少人数から段階的に話し合いを行う。



イ 思考の手がかりとなる討論シートの工夫

討論会の中で、論点をそらすことなく話し合いを活性化させるために、学習過程に沿って討論シートを活用した。テーマを受け話し合う前に自分の立場の考えをまとめる（写真1：意見組み立てシート）、話し合いの最中に重要なポイントをメモする（写真2：討論会メモ）、話し合いの後に、自己評価を記録できるワークシート（写真3：振り返りカード）を使うことにした。

<写真1>

意見組み立てシート

最終的主張（ ）	予想される質問とどの答え	初め的主張（ ）	立場
私は、私たちが、自分たちの意見を発表するときに、自分の意見をしっかりと述べて、相手の意見をしっかりと聞いて、お互いの意見がぶつかり合っても、お互いの意見を尊重し合えるようにしたいです。	① 相手の意見をしっかりと聞くことができるか？ ② 自分の意見をしっかりと述べているか？ ③ お互いの意見を尊重し合えているか？	私は、私たちが、自分たちの意見を発表するときに、自分の意見をしっかりと述べて、相手の意見をしっかりと聞いて、お互いの意見がぶつかり合っても、お互いの意見を尊重し合えるようにしたいです。	私は、私たちが、自分たちの意見を発表するときに、自分の意見をしっかりと述べて、相手の意見をしっかりと聞いて、お互いの意見を尊重し合えるようにしたいです。
	質問したいこと		

授 業 記 録

○ 本時の学習の流れ，課題を確かめる。

話し合いのポイントを確認しよう。 ※別紙ポイントシート参照

全員討論会をしよう。

○ 討論会を行う。

それぞれの位置に移動して，討論会を始めよう。

テーマ：「学校にシャーペンを持ってきてもよいか。」

グループAの記録

司会 (㊸) : 1名 記録・聞き手 (㊹) : 3名 肯定 (㊺) : 2名 否定派 (㊻) : 2名

㊸ : 肯定派，はじめの主張お願いします。

㊹ : 4つあります。

1つ目：芯が折れても何回も使える。

2つ目：鉛筆より字がすらすら書ける。

3つ目：削らないですむ。

4つ目：鉛筆よりもなくさない。

㊺ : 速すぎて聞きとれない。

㊻ : 再度，速さに気をつけて主張。

㊸ : 否定派のはじめの主張お願いします。

㊻ : 2つあります。

1つ目：鉛筆の方が字をていねいに書ける。

2つ目：シャーペンは，芯を出したりして遊んで話を聞かないことがある。

反論や質問をしよう。

㊸ : 反論したいこと，質問したいことを考えてください。

㊹ : 肯定派へ質問。どうして，鉛筆よりすらすら書けるのか。

㊺ : 鉛筆より芯が細いから。

㊻ : シャーペンばかり使っていると，鉛筆系の必要がなくなる。

㊸ : シャーペンは，テストのとき使えばいい。

㊻ : 芯で遊んだりして，集中できない。

㊦：否定派へ反論。鉛筆の方が字をしっかりと書けると言ったが、芯の太さを変えるから大丈夫だと思う。

㊧：芯がなかったらどうするのか。

㊨：近くの人からもらう。

㊩：テスト中ならどうするか。

㊪：そのときは、鉛筆を使えばよい。

最後の主張をしよう。

㊫：これで、反論や質問を終わります。最後の主張の準備をしてください。

㊬：シャーペンは、削らなくて済む。鉛筆の方がしっかりと書けるといったが、シャーペンも芯を取り替えればしっかりと書けると思う。

㊭：テストのときだけ使っても良くないし、やっぱり鉛筆の方がしっかりと書ける。また、当番の仕事がなくなる。

どちらが説得力があったか発表しよう。

㊮：聞いていたグループの人は、どちらが説得力があったか発表してください。

㊯：私たちは、肯定派に賛成です。シャーペンの芯を替えれば字をしっかりと書けるという意見に説得力があった。また、芯を入れるとき遊んでしまうという意見があったが、前もって準備しておけば大丈夫だと考える。

㊰：ありがとうございました。これで話し合いを終わります。

今日の討論会を振り返ろう。

見A：テスト中に鉛筆が丸くなったら、削らなくてはならないが、シャーペンは削らなくてもよいという意見に説得力があった。

見B：止め、はね、はらいは難しいが、芯を替えればうまく書ける意見に納得。

見C：シャーペンは、芯が折れてもまた使える意見は納得できる。

ポイントシート

話し合いに必要な力

〔聞く力〕

うなずいて聞く…相手の考えを素直に受け入れて聞くこと。
首を傾げながら聞く…自分の経験や知識、考えと比べながら疑問点はないかと聞くこと。

〔話す力〕

一生懸命話す…相手に自分の意見や考えを伝えたい、分かってもらいたいという気持ちで話すこと。

〔声の大きさ・抑揚・表情・言葉づかい〕
気をつけて話す…話題からそれないように話すこと。

〔態度〕

表情豊かに、大きな身ぶり手ぶりを使って、聞いている、話している自分をアピールすること。

教科書47ページより

① 議論の筋道に沿って発言する。

② 説得力ある話し方の工夫をする。
・意見を先に、理由を後に話す。「〜と思います。わけは…」
・体験や具体例を入れて話す。「〜と思います。たとえば「

③ 相手の主張や、質問に対する答えをよく聞き、それをふまえて発言する。
「〜さんに付け加えます。」「〜さんに質問します。」「話し合った結果…」「」の考えを聞いて…」。

④ たがいの立場の「**いっぽん**の**ちがいは何か**」を考えながら聞く。

④ 授業の考察

ア 視点1：発言意欲を高めるために、各種討論シートの活用は効果的であったか。

<成果>

- 児童（特に発言意欲の低い児童）にとって、各種討論シートは安心感を与えるものであり、学習の見通しを明確にすることができた。そのために、学習活動が円滑化され、学びに有効であるという成果が見られた。

<課題>

- 討論シート作成に当たっては、国語科としてのねらいが明確で、もっと学習活動が見える工夫を続けることが大切である。
- 個人差に対応した討論シートを工夫する必要がある。

イ 視点2：発言意欲を高めるために、ディベート形式の話し合いは効果的であったか。

<成果>

- 自分の立場が明確になり、発言意欲を促すことにつながった。他の活動においても、目的意識、相手意識をはっきりさせることが発言意欲を高めることに重要であることが分かった。

<課題>

- 国語科としてのねらいを達成するには十分とは言えなかった。ディベートのプラス面、マイナス面を押さえた上で指導する必要がある。
- テーマは、討論に値するものを設定する必要がある。

ウ 視点1，視点2の関連から見えてきたこと

国語科で学ぶことは、言語能力の基礎、基本である。当校の学習課題の解決には、国語科で身につけた力を様々な活動場面で活用していくことが重要となる。しかし、先を見すぎると、学習活動の目的があいまいになり、国語科で身につけるべき言語能力がはっきりしないまま学習が進むことがある。国語科としてのねらいを明確にし、スモールステップで授業実践を積み重ねることが重要である。

※ 当校の「身につけたい力の系統表」別紙参照

<別紙>

国語科 身につけたい力の系統表

	低学年	中学年	高学年
話す	<p>相手に分かるように話す力</p> <p>○知らせたいことを選んで話す。 ○尋ねられたことに対応する。 ○理由を付けて話す。 ●順序を考えながら話す。</p>	<p>相手や目的に応じて話す力</p> <p>○5W1Hを意識して話す。 ○題を付けてから話す。 ○メモをもとに話す。 ●中心をはっきりさせて話す。 ●「はじめに」「つぎに」「終わりに」などを使って、順序よく話す。</p>	<p>目的や意図に応じて、的確に話す力</p> <p>●順序や話の中心に気をつけて話す。 ○必要に応じて、資料や例を示しながら話す。 ●理由をはっきりさせて話す。 ○結論や立場を効果的に位置づけて話す。 ●聞き手の反応を確認しながら話す。</p>
	<p>言語事項</p> <p>○姿勢、口形に注意して、はっきりした発音で話す。 ●相手に聞こえる声で話す。 ●終わりまでしっかり話す。 ○主語・述語をはっきりさせた文で話す。 ○丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話す。</p>	<p>言語事項</p> <p>●相手や目的によって、声の大きさや速さを変えて話す。 ○つながりを考えて、指示語や接続語を使って話す。 ○相手や目的に合わせて、丁寧な言葉で話す。</p>	<p>言語事項</p> <p>○共通語と方言の違いを理解し、必要に応じて共通語で話す。 ○相手や場に応じて、適切な敬語を使う。 ○読解力をもたせるために、はっきりゆくり話す。</p>
聞く	<p>大事な事を落とさないように聞く力</p> <p>●どんな話か考えながら聞く。 ○順序を考えながら聞く。 ○知りたいことを質問する。</p>	<p>話の中心に気をつけて聞く力</p> <p>○話の内容が分からないところを質問する。 ●大事なことを押さえながら聞く。 ●自分の経験や考えと比べながら聞き、感想をもつ。</p>	<p>相手の意図をつかみながら聞く力</p> <p>○事実と感想、意見を区別しながら聞く。 ●自分の考えや経験と比較しながら聞く。 ●相手の考えを受け止めながら聞き、自分の考えを広げる。 ●話し手の思いや願いを引き出す質問をする。</p>
	<p>言語事項</p> <p>●最後まで静かに聞く。 ○分かった時ようなずきながら聞く。 ●話す人の方を見ながら聞く。</p>	<p>言語事項</p> <p>●話す人をよく見て聞く。 ○メモを取りながら聞く。</p>	<p>言語事項</p> <p>○必要に応じて大事な言葉をメモしながら聞く。</p>
話し合う	<p>聞いたり話したりする力</p> <p>●互いの話を集中して聞く。 ○話題に沿って話す。</p>	<p>グループで話し合う力</p> <p>●似ているところと違うところを考えながら話し合う。 ●自分の立場をはっきりさせて話し合う。 ●全員が発言できるように話し合いを進める。(同会)</p>	<p>見通しをもって計画的に話し合う力</p> <p>●相手意識や目的意識(解決したい、共通理解したい)をもって話し合う。 ●立場や根拠をはっきりさせながら話し合う。 ●意見をまとめながら話し合いを進める。(同会)</p>
	<p>言語事項</p> <p>●習ったひらがな、片仮名、漢字を正しく書く。 ○敬語の「は」、「へ」、「を」を文の中で正しく使う。 ○点(・)や丸(。) かぎかっこ「」を正しく使う。 ○主語と述語が合うように書く。</p>	<p>言語事項</p> <p>●習った漢字を使ったて書く。 ○句読点や改行を意識して書く。 ○文章中に指示語や接続語を使う。 ○文章の敬体と常体がわかる。 ○簡単な単語をローマ字で書く(4年)。</p>	<p>言語事項</p> <p>●文前に沿って、習った漢字を適切に使う。 ○送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書く。 ●敬体と常体を使い分けて書く。</p>
書く	<p>語や文の続き方に注意して書く力</p> <p>●したことや気持ちが伝わるように書く。 ●順序を整理して書く。 ○書いた文章を読み返して、間違ったところを直す。</p>	<p>段落相互の関係を工夫して書く力</p> <p>○相手や目的に応じて、形式や構成などを考えて書く。 ○書く必要のある事柄を集めたり選んだりする。 ●まとまりごとに段落をつけて書く。 ●中心をはっきりさせて書く。 ●「はじめに」「つぎに」「終わりに」などを使って、順序よく書く。 ○文章のよいところを見つたり、間違いなどを正したりする。</p>	<p>目的や意図に応じ、筋道立てて書く力</p> <p>○相手や目的、場面に応じて、表現方法を工夫して書く。 ○根拠や具体例などを適切に選択し、整理して書く。 ●文章全体の組立てを考慮して書く。 ●事実や感想、意見などを区別して書く。</p>
	<p>言語事項</p> <p>●習ったひらがな、片仮名、漢字を正しく書く。 ○敬語の「は」、「へ」、「を」を文の中で正しく使う。 ○点(・)や丸(。) かぎかっこ「」を正しく使う。 ○主語と述語が合うように書く。</p>	<p>言語事項</p> <p>●習った漢字を使ったて書く。 ○句読点や改行を意識して書く。 ○文章中に指示語や接続語を使う。 ○文章の敬体と常体がわかる。 ○簡単な単語をローマ字で書く(4年)。</p>	<p>言語事項</p> <p>●文前に沿って、習った漢字を適切に使う。 ○送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書く。 ●敬体と常体を使い分けて書く。</p>
読む	<p>順序や場面の様子に気づきながら読む力</p> <p>●易しい部分に興味をもつ。 ●順序を考えながら内容のたいさいを読む。 ○場面の様子などについて、想像しながら読む。 ○言葉や文のまとまりを考えながら音読する。</p>	<p>内容の中心や段落相互の関係を読む力</p> <p>○いろいろな読み物に興味をもち、読む。 ○段落相互の関係を考え、文章を正しく読む。 ○場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに読む。 ●内容や場面の様子がよく分かるように音読する。</p>	<p>内容や要旨を把握しながら読む力</p> <p>○必要な図書資料を選んで読む。 ●内容を的確に押さえながら、要旨をとらえる。 ●優れた叙述を味わいながら読む。 ○内容について、自分の考えを明確にしながら読む。 ●内容や様子が分かるようにすらすら音読する。</p>
	<p>言語事項</p> <p>○はっきりした発音で読む。 ○ひらがな、片仮名、漢字を正しく読む。</p>	<p>言語事項</p> <p>●習った漢字を読む。 ●辞典を使って調べる。</p>	<p>言語事項</p> <p>○辞書や各種の辞典を利用して調べる。 ●文章を繰り返し読みながら、優れた表現を抜き出したりする。 ○易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しむ。 ○文や文章の構成の工夫を見いだし、(段落の組立て、論の進め方、展開の仕方など) ○比喩・文末・倒置等の表現に着目して読む。</p>

(2) 日々の授業改善への意欲を高める校内研修の取組

① 「授業の視点」の明確化

授業者が単元づくり及び授業を構想していく上で、工夫・改善を行った箇所を「授業の視点」として設定した。これは、公開授業後の協議会で、成果と課題を焦点化して議論するためだけでなく、効果のある学習方法を職員間で共有し合い授業改善をより促進していくことをねらった。

「授業の視点」を明確にしたことで、次に述べるKJ法の導入と合わせ、職員協議会への主体的参加につながった。

<公開授業 授業視点例>

学 年	教 科	視 点
5年	国 語	・より分かりやすい活動報告書にするために、本時の伝え合う活動は有効であったか。
3年	国 語	・意見交流を活発にするために、話し方・聞き方のモデル提示は有効であったか。
4年	理 科	・本時のねらいを達成するための教師の支援は有効であったか。
6年	国 語	・発言意欲を高めるために、討論シートの活用は効果的であったか。 ・発言意欲を高めるために、ディベート形式の話し合いは効果的であったか。
2年	国 語	・友達と話し合うことによって、自分の考えた道具をより分かりやすく説明することができたか。

② 協議会でのKJ法の導入

少人数の職員ではあるが、年齢構成、経験年数に幅がある。そのような職員構成の中で、職員一人一人が積極的に意見、提案ができるよう年度途中から、協議会にKJ法を取り入れた。

堅苦しくなく、リラックスした雰囲気の中で全員が意見、提案をすることができた。また、成果と課題を視覚的に捉えることができ、日々の授業改善に向けた具体的方策を明確にすることができた。



③ 個人研修テーマの設定

研修テーマ「一人一人が輝く授業づくりを目指して～伝え合いを通して、学びを深める子どもの育成～」達成に向けての取組が、より学級での指導や日々の授業改善に結びつくように、全体テーマを受けて個人テーマを各自が設定して取り組んできた。職員の実践的取組の意欲につながっている。

<個人研修テーマ一覧>

職員	研 修 テ ー マ
A	伝えたいことを、生き生きと話したり聞いたりする子どもの育成
B	伝え合う内容をわかりやすく表現する子どもの育成
C	自分の考えをしっかりともち、互いに伝え合うことができる子どもの育成
D	自分の伝えたいことを、わかりやすく表現する子どもの育成
E	目的意識をもって伝え合おうとする子どもの育成
F	相手の意図を聞きとったうえで、自分の思いを伝える子どもの育成
G	目的や相手意識をもって、伝え合おうとする子どもの育成

3 今後の取組に向けて

今後授業改善，指導力向上に向けて，更に進めていくこととして次のような点が挙げられる。

(1) 長期的な目標と中・短期的な目標を明確にする。

過去数年間，国語科の書く力・話す・聞く力の育成に力を入れてきた。しかしながら，NRT等の検査結果を見ると向上が見られない。また，自分や相手の思いや感じたことを表現できないため，気持ちが内向きになったり，相手を傷つけてしまったりするなどの子どもの様子を受けて研究協力実践校としての取組が始まった。

その取組に充実のためには，子どもの姿にも目を向けた長期的な目標を設定し，それに向かって今まで以上に教職員一人一人が一丸となって取り組むことが重要である。そのためには，具体的な長期，中期，短期の段階的な目標を設定する必要がある。

【長期目標】 学校・家庭・地域が言葉の重要性を共有し，子どもたちの生きて働く言葉力の育成に取り組む

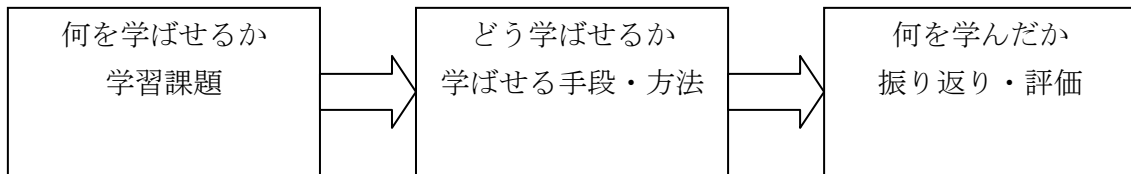
【中期的目標】 子どもたちが，自ら，学習した言語能力を駆使し，地域の活性化や地域貢献につながる表現活動を行う。

【短期目標】 伝え合う力の育成

(2) 日々の授業改善の視点を明確にし、共通理解して取り組む。

① 学びの道筋の見える授業の実践

子どもたちの学びのために、次のような基本を確実に抑えた日々の授業が不可欠である。



② 働きかける話し手・聞き手を育てる言語環境の整備

生きて働く言語能力を育てるためには、授業の充実と言語環境は密接な関係がある。授業で身につけた力を、日常のあらゆる場面で活用することにより、その能力が生きる力となりうると考える。

そこで、意図的、計画的に学んだことを活かす場面を設定するとともに、その場面での指導は、以下のようなことを念頭に置き進めていく必要がある。

【学ぶ目的】 実現したい思いや願いがある

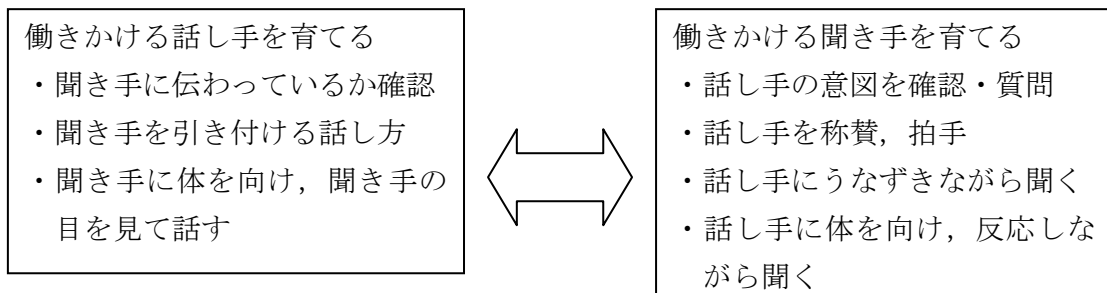
解決したい問題がある

よりよくしたいことがある

【目的意識】 伝えたいことがある

【相手意識】 伝えたい人がいる

聞いてくれる人がいる



話し手と聞き手が言葉でかかわり合う

今後も、これまでの取組の成果を踏まえ、前述のような展望をもちながら、子ども一人一人が輝く授業の実現に向けて更に研修を深めていきたい。